

ASCE 年次総会出席報告

フェロー会員 土木学会専務理事 古木守靖

2006年10月17日から19日にかけて、アメリカ土木学会(ASCE)の年次総会がシカゴで開催され、国際行事を中心に石井弓夫次期会長、小林ソフト化研究所小林正樹氏、関西国際空港用地造成(株)高田直和氏とともに出席した。またあわせて、土木学会と協定を結んでいるメキシコ土木学会連盟(FECIC)との打ち合わせを行ったので報告する。なお石井次期会長はASCE総会に合わせて開催されていた世界工学協会連合(WFEO)の理事会にも参加されている。

1. ASCE 年次総会

■ 18日 インターナショナル・ランチョン

ランチョンではジョージ・ブグリアレロ氏(ポリテクニク大学名誉学長の講演)により、「都市の持続可能性：挑戦、パラダイムと政策」と題して講演が行われた。

■ 19日 インターナショナルラウンドテーブル

ラウンドテーブルは13の学会や国連関係組織代表の参加のもと、ASCE名誉会員で元米国陸軍中將(土木技術者)のヘンリー・ハッチ氏の司会で進められた。本年の議題は「サステイナブルな社会基盤への投資」であり、世銀のサステイナブル開発担当副会長(Vice President of Sustainable Development)のカシー・シエラ女史の基調演説の後、各代表から発表がなされた。事務局からはあらかじめ五つの質問が与えられていて、おおむねその質問に沿った発表がされていた。石井次期会長の発表の趣旨も含め主な議論は以下のとおり。

(質問1) 土木技術者は如何にして他の分野の専門家と協働すべきか？

土木技術者は他分野の技術者の協力を得て事業を進めるべき立場にあるとの見解が多かった。わが国からは明治以降の近代化の中で古市ら土木技術者によるいわば指揮官としての活動が紹介された。

(質問2) いかにして国の政策決定に影響を与えるか？

日本では土木技術者の政治家も多くいるわけだが、中国のように多くの指導者が技術者である例もあり、技術者が政治家になればよいとの意見もあった。

米国からは政治家への働きかけが不十分との反省も聞か

れ、まず科学的、透明性のある働きかけが重要との意見もあった。

(質問3) 技術者はなぜMDG(国連の途上国支援計画)にもっと協力的にならないのか？

世銀の副会長を呼んでいることもあり、世銀が技術者の意見を尊重せずにインフラ軽視をしたことへの批判がぶり返されたが、現在再びインフラを重視する方向に転換していることも確認された。伝染病の防止は医者ができるわけではなく、上下水道などのインフラを技術者が建設するから可能になるといった意見が多く出された。わが国からはQBS(コストではなく内容による選定)によるコンサルタントの選定が不可欠と指摘。他国からも同様の発表があった。

(質問4) 技術者はプロジェクトレベルで汚職防止に関してどのように貢献できるのか？世銀に設けられた、ホットラインやブラックリストの制度は機能するのか？^{注)}

汚職の問題は技術者が直接コントロールはできないが、規制ではなく心の問題として解決していく必要があるとの意見があった。概して自分たちは努力しているとのトーンの発表が多かった。今後とも技術者団体として努力するとの結論。わが国からは技術者倫理に関する取り組みを紹介。

注) 汚職問題はこの数年、ASCEの注目テーマになっている。16日～18日にASCEの協力でWFEO理事会が開催され、石井次期会長が日本工学会国際委員長、WFEO理事会顧問として出席。ここでもCorruptionが大きな問題となっており、Transparency International代表も参加して、討議を行った。石井次期会長より日本における反汚職行動についてJSCEの方針に沿った発表が行われた。

(質問5) 技術者のトレーニング、技術移転を促進するには？

技術の移転は大きな関心事であり、WFEO、ASCEなどの機関の努力に期待することがあげられた。単純に技術習得ではなくHolistic(総合的)な訓練が重要とされた。わが国からは土木学会の活動が紹介された。

なおそのほかにわが国からは、持続可能な技術の紹介事例として関西空港の二期工事を紹介した。

■ 19日 ASCE との協定延長の調印

今回、ラウンドテーブルの休憩時間に、ASCE と韓国、モンゴル、日本、エチオピアなどの協定延長の調印が行われ、ASCE はデニス・マーテンソン会長、ナタール専務理事、当方石井次期会長(会長代理)、古木専務理事が署名した。

また、会議終了後の国際行事参加者の夕食はバンド付のにぎやかなものになった。アジアでは日本のほかに韓国 T.S.Lee 教授、台湾 M.T.Wang 氏、中国譚会長と顔見知りが集まった。その他の有力なメンバーは、英国 ICE、中南米諸国。変わったところではフィンランドからの代表があり、対ロシア挟み撃ち談義(もちろん笑い話としてである)で盛り上がった。

今回印象的なことは、大会のダウンサイジング(彼らの表現)である。ナタール専務の話では参加者は 850 人あまり、この数年参加者が思うように集まらず、思い切ってプログラムの大改編を行ったとのこと。ただし国際プログラムはむしろラウンドテーブルなど充実している感じもあった。別の理事の話では、近年充実しつつある Institution (研究部門)の活動が活発であり、総会における発表等に興味が減っているとのこと。考えさせられる変更である。



写真-1 協定書調印を終えて、左よりナタール専務理事、マーテンソン会長、石井次期会長、古木専務理事

■ 21日 新会長就任式

新会長にはウィリアム M. マルクソン (William F. Marcuson III) 氏が就任した。就任演説で「われわれの ASCE は工学会 (Society of Engineering) ではない。技術者協会 (Society of Engineers) である。この意味をよく考え土木技術者個人としても未来に向けて行動しなければなら



写真-2 会長就任式 左からウィリアム M. マルクソン新会長、マーテンソン 2006 年会長、モンガン次期会長

ない。『未来のための技術者たれ』(Be a civil engineer for future)」と述べた。新会長は、米国工兵隊の将校から地盤・耐震の研究者になり、現在はコンサルタントである。日本にも知己が多い。

更に次期会長は、マヴィッド G. モンガン氏に決定している(この項石井次期会長の出席報告による)。

2. メキシコ土木学会連盟(FECIC)との打ち合わせ

10月17日夕刻、FECICの専務理事カルデロン (Octavio Calderon) 氏と打ち合わせた。FECIC とは 1998 年に協定を締結しているが、その後必ずしも活発な交流が行われているわけではない。

FECIC の現在の最大関心事は、市民の保護(災害の防除)であって、地震国であるという共通の認識から、日本の進んだ技術やプロジェクトの情報をもっと入手したいとのことであった。学会誌も送ってもらっているが如何せん日本語なのでとのこと。また現在の協定は 2007 年に期限が切れるが、FECIC としてはたとえば 6 月に台湾で開催される CECAR に出席しその前後に東京に立ち寄って、調印式を行うことも考えられるとのことであった。

協定書の文面自体は現在のままにし、具体的な事業で協力し合うこととし引き続き連絡をとりあうこととした。

日本の各種プロジェクトに関してはそれぞれの事業主体で立派な英文資料が用意されているので、それらをまとめ

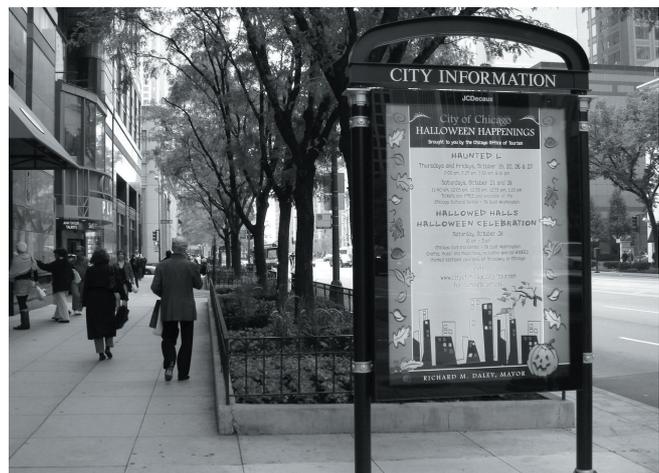


写真-3 シカゴの町は美しい。市の広報板もごらんとおり



写真-4 市内の歩道に見られる名版 町の歩道には、施工した業者名を記した名版が埋め込まれている



写真-5 シカゴ川沿いの建物と開閉橋(ワバシュアヴェニュー橋)
この川にある橋はすべて開閉式で、ヨットが出入りする秋と春には週2~3回開閉するという(同行の濱田氏はその1場面を目撃した)

て、土木学会の資料とあわせて協定学協会に送ることも意味のあることではないかと思われる。

(シカゴ市)

シカゴはイリノイ州ミシガン湖の西岸に展開する、人口約290万人(圏域人口で960万人)、アメリカ第3位の美しい都市である。アメリカ中西部の中心都市として発展してきたが、その都市構造、文化、有色人種比率などの点

でアメリカの典型的な都市であると言われる。

1970年代の留学時代に何回か訪れた町であるが、今年の訪問で都心部が花で飾られ極めて美しくなっている点に強い印象を受けた。たとえば写真に示すシカゴ市の掲示板にははっとさせられた。治安もいようで、友人のアメリカ人もシカゴはすばらしいと胸を張る。

日本人にはあまりなじみがないタクシーの乗り合い(シェアライド)であるが、空港から都心のホテルまでは一人で乗ると50ドル程度のところが3人同乗で一人20ドルあった。同乗した妙齢のビジネスウーマン二人の話では通常の交通手段となっているとのこと。

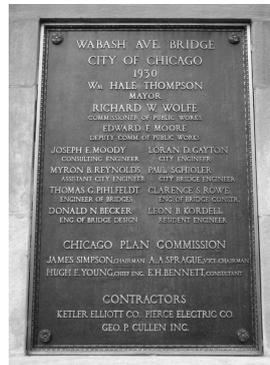


写真-6

ワバシュアヴェニュー橋に掲げられているプレート、1930年建設。市長、議長の他、設計者、技術者、市の計画審議会メンバー、施工業者の名前が記されている

土木学会誌 11月号 正誤表

土木学会誌 11月号で誤りがありましたので、修正してお詫びいたします。

箇所	正	誤
ミニ特集 33頁 タイトル、目次	「技術者倫理」…	「技術倫理」…
箇所		追記
温故知新 54頁 千秋信一氏略歴	1953年 (財)電力中央研究所入所 1961年 工学博士 1995年 (財)電力中央研究所名誉特別顧問	
箇所	正	誤
温故知新 54頁 千秋信一氏略歴	1981年 科学技術庁長官賞(科学技術功労賞)受賞 1986年 藍綬褒章受賞/(財)電力中央研究所常務理事 1996年 土木学会功績賞受賞、名誉会員 著書 「発電水力演習」「温排水問題」「環境アセスメント」ほか 趣味 都江堰(中国)とモン・サン＝ミシェル(仏)が好き	科学技術庁長官賞(科学技術功労賞) 藍綬褒章 土木学会功績賞 「環境工学概論」「海洋開発」ほか モン・サン＝ミシェル(仏)と都江堰(中)が好き
55頁 中村英夫氏略歴	1935年京都市生まれ 1977年 東京大学工学部土木工学科教授(~1996年)	1926年京都市生まれ 東京大学工学部土木工学科教授(~1995年)

(土木学会事務局)